図書紹介（131）

櫻井義秀著

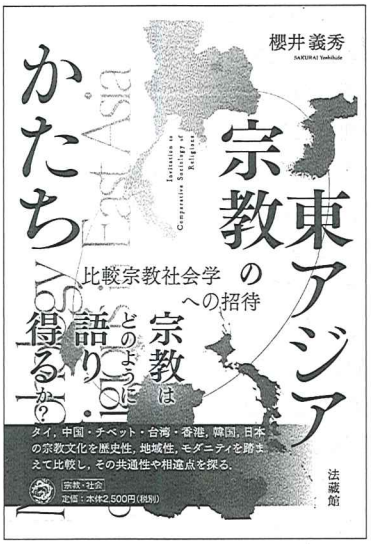
『東アジア宗教のかたち 比較宗教社会学への招待』（法蔵館、2022年）

おやさと研究所主任
堀内　みどり　*Midori Horiuchi*

宗教はどのように語り得るか？

タイ、中国、チベット、台湾、香港、韓国、日本の宗教文化を歴史性、地域性、モダニティを踏まえて比較し、その共通性や相違点を探る。

本書の帯にはそう書かれている。宗教に「かたち」を見いだし比較しなければ、そこにある共通性、異質性は捉えられない。長年にわたる現地調査を踏まえ、著者は、これらの地域で近代化以降に変容展開した伝統宗教・新宗教を俯瞰する。



著者の櫻井義秀氏は、これまでにもこの地域での調査研究の成果を継続的に発表してきている。本書は、主に『月刊住職』で発表された「比較宗教の視座から」と題された連載と、いくつかのシンポジウムでの講演などをもとに構成されている。地域における宗教の特徴を踏まえて、その「かたち」を意識して比較していく試みである。それは特に近代における宗教変容を考えるために必要だと思われることでもある。「はじめに」では「宗教のかたち」を語ることの結果に期待して次のように述べる。「比較宗教学への招待」を副題にしている理由がここにあると思う。

「私は、このような比較宗教文化論的な語り方を入れない限り、世俗化と伝統的共同性―家族・地域社会の解体が進行しつつある現代日本において、宗教者は一般社会の人々はいわずもがな、自教団の信徒に対してもそれぞれの宗教が持つかたちを説明できないのではないかと思っています。二〇二五年、団塊の世代が七五歳以上となり、高齢者の中心世代となります。青年期に合理的発想や革新的政治文化の影響を受けたポストモダンの高齢者は、宗教そのものへの忌避感が強く、昔からこのようなやり方できたということだけではいささかも納得しない世代です。本書が個々の宗教を研究する人たちや、宗教に関わる人たちにとって宗教の「かたち」を意識する素材になれば幸いです。」（「はじめに」より）

「第一章　宗教の進化と社会科学」は、まず、「人類の進化と宗教文化」について語られる。そこで、「なぜヒトが進化したか」については諸説があるが、「私はヒトが生物学的な集団（血縁の雌雄と子どもとその仲間）を超えた集団を形成し得た時に、ヒトは動物から人、人間へ変わったのではないかと考えます。」と述べ、ヒトには協力関係が本能として埋め込まれてはいないので、「文化の介在なしには人と人とが結び合うことができない」とする。そして、「利己的な人が協力するのはなぜか」という問いかけ、「共有財産という高度に文化的な思考を働かせないと協力行動が取れない」「私にとって大切なものは皆にとっても大切なものという発想は、高度に人間的な能力の賜」であることを説明している。その上で、発達心理学や進化生物学の「心の理論」に注目し、次のように述べる。

宗教的感性とは、目の前にいない他者の心や絶対的他者の心を想像して祈念する、自己を律するというものが始まりではなかったかと思われます。そうしますと、宗教的感性や観念の発達によって他者性への関心は高まり、集団内での協調性の規範が確立し、さらに宗教的存在を想像する手助けとなるシンボルやシンボルを操作する儀礼・儀式によって、人間の心はさらなる発達を遂げてきたのではないかという推測も可能かと思われます。

さらに、宗教の起源やその展開について、宗教進化論や脳科学の知見から言及し、宗教文化とは人間にどのようにかかわってきたかについて考察し、そして「比較宗教社会学」の節では、改めて「宗教の概念」から始め、「社会学とは何か」「宗教社会学とは何を研究するのか」「宗教社会学者の現況」「比較という思考方法」と進み、「比較宗教学」へ続く。

「第四章　東アジア宗教のかたち」は、「縦糸・横糸・撚糸で紡がれる宗教文化」「東アジアの諸宗教」「宗教と政治体制」「近代と宗教」の４つの節で構成されている。著者の大学でも中国の留学生が増える中、中国との研究交流が増え、東アジアへ目が開かれることになった。東アジアの宗教文化をタイの宗教文化と比較すれば、まず東アジアのどの国にもタイの上座部仏教に匹敵する国家宗教や国民の宗教がない。また東南アジア諸国とも異なる。その理由は二つあって、「一つは、東アジアの宗教文化は、中国の宗教文化に典型的ですが、儒仏道が家族や地域社会の中に溶け込んで渾然一体となって人々の日常生活を彩っている」「もう一つは、……近代化の宗教に行政的管理の浸透」と述べる。

著者の幅広い視野と長年のフィールドワークの経験が深い考察となって、丁寧な語り口で語られている本書は、宗教学や社会学の研究者だけではなく、それらの分野をまたぎ、またタイや東アジア、チベットなどの地域研究に携わっている者にも薦めたい１冊となっている。

付録には、当該研究の参考文献が著者の９冊の本を含め、簡単な内容紹介とともに研究地域ごとに列記されていて、更なる関心を呼び起こしてくれる。

目次は以下の通り。

はじめに
第一章 宗教の進化と社会科学
第二章 タイ仏教のかたち
第三章 タイ政治と仏教
第四章 東アジア宗教のかたち
第五章 中国・台湾の宗教変容
第六章 韓国と日本の宗教変容
第七章 ナショナリズムと生きる希望
付 録 アジアの宗教を読む 20 冊
参考文献
初出一覧
あとがき
索 引